

## 歴史点描39

## 河野東馬墓碑と善慶寺 その1

網干3偉人といわれる盤珪国師、田捨女（貞閑禅尼）、河野鉄兜は、戦前の国定教科書に載せられていたので網干では、おそらく知らない人は、いないであろう。

河野鉄兜の11歳下の弟が東馬である。河野東馬は、雅号を香邨とし絵筆が巧みで多くの南画作品を残した。東馬の遺品が、網干の善慶寺に所蔵されていると聞き及び、7月から9月にかけて4度、善慶寺を訪問した。お忙しい中、2度目からは、善慶寺喜始弘宣住職も同席されて、お話を伺うことが出来た。住職奥様曰く、山門には龍野脇坂家の紋が刻まれている、数ある門の中の1対が善慶寺に移築された。山門については姫路市教育委員会による説明書きがあり、切妻造・本瓦葺きの四足門とある。山門を潜ると、参道の両側の桜と、もみじの木の青葉が美しい。住職奥様によると、桜の時期、尚一層華やかとのこと。

裏の墓地に廻ると、一際立派な墓碑が目に入る。大きさは、どの資料にも見当たらないので、実測した所、高さ約6m、台座の幅約3m x 3m。正面に『香邨河野先生墓』とあり側面に碑文。撰文と書は香邨の高弟の一人、神楽江薫（元枢密院書記官）。墓碑銘は拝読困難であったので、網干町史に掲載されている文章を引用する。『先生諱は通鶯、字は季一、三省翁の第五子、其先を豫州太守と為す。國滅びて播磨に移り、世々醫を業とし網干に居る。先生天保乙未（六年）八月十七日を以て降る。家業を承けて之を恢光す。性明敏にして博識、能辯善く人を誨ふ。又詩画に工みなり。明治壬子（四五年）六月十日歿、年七八。嗚呼、先生醫以て人を授け、學以て士を造る、郷黨慶有り、遺澤は千禩』。

住職曰く、善慶寺には香邨の大きく立派な位牌も祀られている。何年か前迄、玄孫達がお参りに来られていたが、永代供養にされてからは足が遠のいた。河野家の子孫の遺骨も香邨の隣に納められている。

網干歴史講座会員 新在家 三輪京子



善慶寺山門



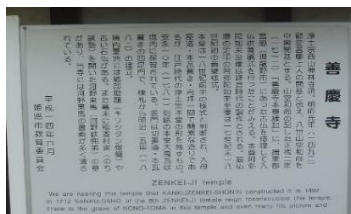
龍野脇坂家家紋入り門の上部



香邨墓碑



神楽江薫による墓碑銘



姫路市教育委員会による  
善慶寺山門前の説明書き



堀越しの正面墓碑

幅3.1m奥行3.2m高さ約6m